

備前市事務事業評価表

事務事業名	旧片上鉄道沿線地域活性化事業	コード	担当課	企画課 企画振興班
		01-01-12-03	担当者	金光 亨
事業実施期間	平成10年度～		電話	0869-64-1871
総合計画 事業（政策）体系	大項目	安全で快適に暮らせるまちづくり		
	中項目	生活しやすいまちづくり		
	小項目	公共交通		
	施策	バス路線網と運行の充実		

事業について	
目的	片上鉄道の廃止により、児童、生徒、高齢者等の交通手段を持たない人が、通勤・通学・通院・買物等のために移動する手段を確保する。また、バスの運行により旧片上鉄道沿線地域の活性化を図る。
対象（誰のために）	交通弱者（児童・生徒、高齢者、マイカーを持たない人）、沿線地域住民
内容	片上鉄道沿線地域活性化対策協議会を設立し、片上から柵原間の路線維持のため路線バス事業者に赤字相当額を補助する。この路線は、県補助事業の対象路線となっている。構成市町は、2市2町がそれを負担している。

事業の結果	17年度		
実施項目	回数など	回数など	回数など
年間輸送人員	74,392 人		
沿線バス運行維持負担金 （協議会負担金）	5,750,690 円		
	(29,784,000)		

事業費 (単位：千円)	事業費		財源		事業費		財源		
	直接事業費	5,761	国庫補助金等		直接事業費		国庫補助金等		
	人件費	1,080	受益者負担		人件費		受益者負担		
		市債				市債			
合計	6,841	一般財源等	6,841	合計	0	一般財源等	0	合計	0

結果指標①	必要人員	0.10	人		人
	結果指標名	年間利用者数			
	結果指標量	74,392			
	単位	人			
	対前年比	0.00%			
	事業費	円		円	
	単当たりコスト①	円		円	

結果指標②	結果指標名	負担金額			
	結果指標量	5,750,690			
	単位	円			
	対前年比	0.00%			
	事業費	円		円	
	単当たりコスト②	円		円	

事業の成果	17年度		
成果指標名	年間利用者数	式又は説明	実績報告による
成果指標量	74,392		
対前年比	0.00%		
到達目標値	80,000	到達目標年度	

事務事業の評価		(平成17年度事業)
目的・対象・内容の妥当性評価	目的の妥当性	<input type="checkbox"/> 関係法令等で目的が定められており妥当である <input type="checkbox"/> 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている <input type="checkbox"/> 事業開始当初の目的から変化しつつある <input checked="" type="checkbox"/> 現在の市を取り巻く環境からも目的は妥当である 関係法令等：
	対象の妥当性	<input type="checkbox"/> 受益者の拡大を検討する余地がある <input type="checkbox"/> 受益者の縮小を検討する余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 現在の対象者は妥当である
	市民ニーズの妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 市民、団体などから要望・要請のある事業である <input type="checkbox"/> 市民に概ね好評な事業である <input type="checkbox"/> 公共秩序の維持、行政の適正運営に必要な事業である
	市の関与の妥当性	<input type="checkbox"/> 国・県又は関係法令で定められている事業である <input checked="" type="checkbox"/> 民間に類似サービスがある <input checked="" type="checkbox"/> 本市が関与すべき事業である <input checked="" type="checkbox"/> 事業を取り止めた場合の影響は大である
効率性の評価	コストの効率化	<input type="checkbox"/> 単当たりコストは増加傾向にある <input type="checkbox"/> コスト削減の努力をしている <input type="checkbox"/> できる限り民間活力を利用して <input type="checkbox"/> 受益者負担額は適正である
	手段の最適化	<input type="checkbox"/> 最適な手段を求めて職場内で確認・見直しを行っている <input checked="" type="checkbox"/> 他に有効な代替手段が見当たらない <input type="checkbox"/> 事業は他部署と密接な連絡調整を行っている
	職場の効率化	<input type="checkbox"/> 事業に関して事務改善等作業効率の向上に努めている <input type="checkbox"/> 事業に関するOJT（職場研修）は行われている <input type="checkbox"/> 事業の進行管理を定期的に行っている <input type="checkbox"/> 事業実施について職員の意見・要望が反映されやすい
有効性の評価	目的達成度	<input type="checkbox"/> 成果指標の目標値は目標年度に達成できそうである <input type="checkbox"/> 成果指標は前年度より向上している
	成果向上の可能性	<input type="checkbox"/> 成果は向上しており今後も向上する見込みである <input type="checkbox"/> 今後、成果指標は向上する余地がある
	市民参画度	<input type="checkbox"/> 事業について積極的に情報提供している <input type="checkbox"/> 事業実施等で積極的に市民意見を反映している <input type="checkbox"/> 事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している <input type="checkbox"/> 事業のプラン作りから市民参加を得る手段をとっている
課題認識		利用者は、年々減少している。路線バスは、交通弱者(児童・生徒、高齢者、マイカーを持たない人等)にとっては、必要不可欠の交通機関であるため、行政が路線バス事業者に赤字に対し補助金を交付することは妥当であると思われる。また、この路線は、旧片上鉄道の沿線地域を運行しており、鉄道廃止後の地域の活性化を図る意味でも目的は、妥当である。
効率性の評価		利用者の実態がわからないが、朝夕の便で利用者が多いと思われる。また、路線延長が長いので、車両の効率が悪いと考えられる。今後、利用者の実態を把握して見直しを図る必要がある。
有効性の評価		年間7万人の利用者があることから、効果はあるが、実態を把握しての便数や停留所等の検討が必要である。

総合評価	この路線は、本市と和気町、赤磐市、美咲町を結ぶ唯一の公共交通機関であり、沿線地域の活性化を促進する意味でも重要な役割を担っている。しかし、年々利用者が減少していることから、今後は、実態を調査して、事業者とともに見直す必要がある。	評価区分 <A~E> C
------	--	--------------------

今後の方向性	<input type="checkbox"/> さらに重点化する(行政資源を集中的に投入する) <input type="checkbox"/> 事業の縮小を検討する <input type="checkbox"/> 現状のまま継続する <input type="checkbox"/> 休止・廃止を検討する <input checked="" type="checkbox"/> 見直しのうえで継続する <input type="checkbox"/> 完了・統合
翌年度結果指標量①	結果指標量②
目標値	成果指標量

改善事項	評価の視点	改善内容	改善時期	改善により期待される効果
効率性	実態調査の実施。便数と車両台数の検討		平成18年度	補助金の削減
有効性	実態調査の実施。ルートの検討		平成18年度	利用者の増

事業の目的、対象、内容を考えながら目的の妥当性の評価を行って下さい。

事業費や単当たりコストに留意しながら効率性の評価を行って下さい。

事業の目的やその数値目標である成果指標に留意しながら有効性の評価を行って下さい。